

蝶や昆虫たちの生活環境

Butterflies which found in mountain behind(Mabase Shimizu), Insecta

岩崎行伸*

蝶が棲息する場所は、かなりの広い範囲に亘っている。幼虫の生長に必要な食卓や食樹、成虫が生きてゆくための蜜の源さえあれば、至るところでその姿を見ることができる。里山、雑木林の草地・花畑・緑の多い公園等の他に、人家の庭にも蝶は飛来してくる。都会の生活をしている人が遠出しなくても、身近な場所でウオッチングできる。

キアゲハは、少し郊外の開けたところに行けば見ることができるが、その幼虫はミツバやパセリ・ニンジン等の野菜を好物としている。アゲハチョウは、優雅に舞う姿が蝶類の中でも王様という感じである。成虫は交尾後カラタチ・サンショウの若葉に産卵する。都会の真中から丘陵地まで幅広く棲息し、ミカン等の葉があれば卵を産みつける。アオスジアゲハは、湿った地面に降りて吸水する。食樹は街路樹や公園で見られる。



図1. 青戸の裏山(清水馬走)で見つけた蝶類たち

(A: キアゲハ B: アゲハチョウ C: ミカンジキ)

モンシロチョウは年に6回ほど成虫になるため、春から秋にかけての長い期間わたり見られる。幼虫はキャベツ・ダイコン等を好んで食べる。河川敷で見られるベニシジミ、公園や道ばたの小さな草むらにやって来るヤマトシジミもいる。

春季になると、種々な昆虫たちが姿を現し、活発に動き回るようになる。裏山には昆虫の餌になる食樹・花等があれば、蝶たちは華麗な舞いを見せ、ハナアブやミツバチも密を求めて集まってくる。さらにテントウムシやバッタ等も姿を見せてくれる。蝶や昆虫たちが集まってくる生活環境は、小さな生き物にとって生き繁殖のために必要不可欠な場所であるが、それは同時にヒトにとっても大切でありかけがいのない生活環境でもある。

夏になると、蝉の合唱しぐれとなる。例えば、クマゼミはシャアシャア……、アブラゼミはジリ・ジリ……、ミンミンゼミはミンミンミンミン……、ニイニイゼミはチー・チー……と鳴く。

秋季の夕昏どきになると、昆虫たちの鳴き声が響きわたる。例えば、エンマコオロギはコロコロリ……、クツワムシはガチャガチャガチャと、キリギリスはチョンギース・チョンギース……、ツユムシはジ、ジ、ジ、ジイ、ジイ……と鳴く。この小さい昆虫たちの音が日頃にわたり蓄積されているストレスの解消となっている。

背戸裏山(清水馬走)で見つけた蝶類と昆虫類を挙げると、以下のようになる。



蝶類:アゲハチョウ、アオスジアゲハ、クロアゲハ、キチョウ、キアゲハ、ツマ
グロヒョウモン、ミヤマチャバネセセリ、ルリシジミ、ウラギンシジミ、ベニシジミ、
ヒメウラナミ、ミヤマシロチョウ、モンシロチョウ、ゴミスジ:14種。

昆虫類:クマゼミ、コバネイナゴ、キリギリス、ナナホシテントウ、ツチイナゴ、
ショウリョウバッタ、ジョウロウグモ、ナガコガネグモ、アマガエル、カタツムリ、
カメムシ、ホタルガ:12種。

蜻蛉:シオカラトンボ、ナツアカネ、ミヤマアカネ、3種。

参考図書

- 1) 自然大博物館(1992):蝶類・昆虫類・蜻蛉、小学館、相賀徹夫編集
- 2) 野外観察図鑑-1、昆虫、改定版、旺文社編集
- 3) 海鳴会(1995):野外観察記録-I、II、海鳴メールマガジン、岩崎行伸

参考資料

図1. 背戸の裏山(清水馬走)で見つけた蝶類たち

図2. 背戸の裏山(清水馬走)で見つけた昆虫類たち

身近な生き物研究、*会員:日本野鳥の会、野外観察研究会、昆虫写真研究会